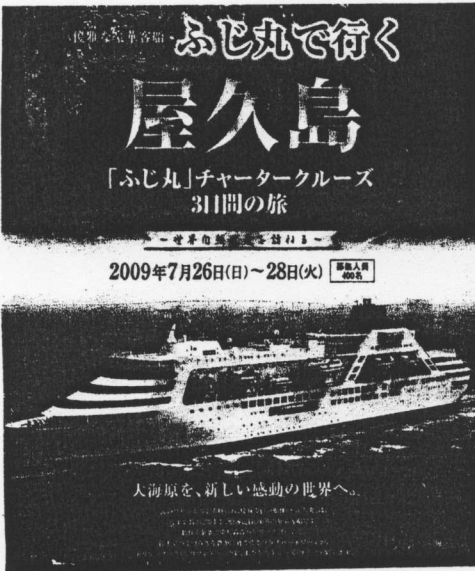


姫路港

開港50年で豪華クルーズ

客船「ふじ丸」で屋久島巡り 脱工業港のステップに



姫路港を発着する豪華客船「ふじ丸」チャータークルーズのパフレットから

開港50周年を迎える姫路港の活性化へ、同港を発着する豪華客船「ふじ丸」(2万3235トン)によるクルージングイベントが7月26日から3日間行われる。工業港のイメージが先行する姫路港に客船の寄港を呼び込もうと、姫路港ポートセールス推進協議会(会長・五百蔵俊彦副知事)が経済観光団体、旅行会社などで構成する全国クルーズ客船誘致連絡会(本部東京)に加入し「クルーズ船で50周年の節目を飾りたい」と内外航の大型客船誘致を進めていた。

姫路城と同時期に世界(自然)遺産登録された鹿屋(自然)遺産屋久島を巡るコースで、「ふじ丸」の姫路寄港は06年2月以来3年半ぶりとなる。

姫路港飾磨埠頭は税関支署や入国管理局出張所、海上保安部もあり、外航客船の受け入れ態勢は整っているが、昨年、輸出入貿易総額が開港以来の最高額を記録するなど、工業港のイメージが強い。一方、半世紀にわたる歴史の中で、クルーズ船は寄港地が急遽変更された。26日朝に姫路港を出発し、翌日に屋久島・宮之浦新港に入港して上陸。樹齢約3000年といわれる最大の屋久杉などを見物し、28日夕、姫路に帰着する船内2泊3日のプログラム。募集定員400人、料金は1人最高29万8000円から最低6万8000円(全食付き)で、同社営業所のある17地区で受け付けている。問い合わせ

は同社(079-288-0111)など。

姫路港は、戦後の1951年に飾磨、広畑、網干港3港を合わせた姫路港として重要港湾に指定され、59年4月に開港。67年に国の特定重要港湾に指定されたのを機に岸壁建設など港内整備を進めてきた。4月で50周年を迎えるのを機に、昨年8月には井戸敏三知事を会長に記念事業実行委員会が発足。5月の大型連休から7月の「海の日」にかけて、記念式典やシンポジウム、大型帆船「海王丸」寄港、臨海工場群見学の産業ツーリズム、子供を対象としたクルージング、釣り大会、恒例の「姫路みなと祭り」花火大会などのイベント計画を進めている。

プランの推進役となったポートセールス推進協事務局長の水田裕一郎

播磨時報

(発行所)
播磨時報社
編集・発行人 笹間清二

本社 〒670-0961 姫路市南町2丁目43
編集室 〒670-0955 姫路市安田4丁目33-9
TEL. (079) 281-0545
FAX. (079) 285-0094
郵便振替 口座 01160-2-12104
00930-4-31250
旬刊発行 毎月1日・11日・21日
購読料 月額500円 年間6,000円

題とされてきた。「ふじ丸」は優雅な船体から「海のプリンセス」とも称される豪華客船。定員600人。今回は初めて地元の神姫バス(姫路市駅前町、上杉雅彦社長)がチャーターした。

26日朝に姫路港を出発し、翌日に屋久島・宮之浦新港に入港して上陸。樹齢約3000年といわれる最大の屋久杉などを見物し、28日夕、姫路に帰着する船内2泊3日のプログラム。募集定員400人、料金は1人最高29万8000円から最低6万8000円(全食付き)で、同社営業所のある17地区で受け付けている。問い合わせ

は同社(079-288-0111)など。

姫路港は、戦後の1951年に飾磨、広畑、網干港3港を合わせた姫路港として重要港湾に指定され、59年4月に開港。67年に国の特定重要港湾に指定されたのを機に岸壁建設など港内整備を進めてきた。4月で50周年を迎えるのを機に、昨年8月には井戸敏三知事を会長に記念事業実行委員会が発足。5月の大型連休から7月の「海の日」にかけて、記念式典やシンポジウム、大型帆船「海王丸」寄港、臨海工場群見学の産業ツーリズム、子供を対象としたクルージング、釣り大会、恒例の「姫路みなと祭り」花火大会などのイベント計画を進めている。

プランの推進役となったポートセールス推進協事務局長の水田裕一郎

飾磨海運社長は「船旅のとともに、今後のクルーズを海に向けるきっかけに醍醐味を楽しんでもらう船寄港への弾み、市民の目なれば」と話している。